



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4143 号 2018.1.16 発行

国立障害者施設を縮小へ のぞみの園、民間移管も 共同通信 2018年1月15日

厚生労働省は15日までに、重度の知的障害者が暮らす大規模入所施設「国立のぞみの園」（群馬県高崎市）の事業を縮小する方針を決めた。入所者が減っているためだ。現在は国の独立行政法人が運営しているが、民間への移管や場所の移転も検討する。

3月までに有識者検討会が報告書をまとめ、工程表を示す。2018～22年度の5年間で細かなスケジュールなど具体化に向けた議論を進める。

のぞみの園は1971年、障害者を終生支援する唯一の「国立コロニー」として、山間部の232ヘクタールの広大な敷地に定員550人で開園。だが2003年以降、国は障害者が地域で生活するよう移行する方針に転換、長期入所者は17年4月に約220人まで減少した。

厚労省は(1)社会福祉法人などの民間に運営を移管(2)診療所や就労支援など付帯事業の縮小、廃止(3)山の上の現在地から市街地への移転——などを検討している。

ただ、平均入所期間が40年を超え、平均年齢も65歳超と高齢化が進んでいるため、本人や家族に不安が生じないよう最後まで責任を持って支援するとしている。期間限定で受け入れている行動障害が著しい人のサポートも続ける。

盲導犬代わり「つえ型ロボ」の実証実験…5年後の実用化目指す



読売新聞 2018年1月15日
報道陣に公開されたつえ型ロボットの実証実験（15日午前、大阪市住之江区で）＝横山就平撮影

視覚障害者の歩くコースを盲導犬のように先導するつえ型ロボットを大阪市立大のチームが開発し、15日、大阪・南港の大型商業施設「アジア太平洋トレードセンター（ATC）」で実証実験を行った。5年後の実用化を目指す。

視覚障害者が歩く際に使う白杖をヒントに考案。長さ1・1メートルのつえの先に、直径17センチの車輪を2個取り付けた。周辺の地図情報が入力されており、レーザーを周囲に照射して、壁などの位置関係から自らの場所を把握する。

利用者が車輪を転がしながら進むと、あらかじめ決めたコースに沿って、車輪が自動的に左右に動き、柱などをよ

けながら目的地まで案内する仕組みだ。

この日の実験では、つえ型ロボを手にした健常者に約450メートル先の出口まで歩いてもらい、精度などを確認。チームの今津篤志・市立大講師は「犬の散歩感覚で行きたい場所に向かえるロボットを目指す。実用化までに安全性をさらに高めたい」と話した。

兵庫県内の福祉避難所 5市町「周知せず」

熊本地震では多くの高齢者が被災し、福祉避難所の必要性が浮き彫りになった＝2016年4月、熊本市益城町

災害時に支援が必要な高齢者や障害者らを受け入れる「福祉避難所」。神戸新聞社が兵庫県内の全41市町に現状を聞いたところ、高齢化の進展や南海トラフ巨大地震の発生が予測される中、確保数は計933カ所に上った。しかし、災害弱者の命をつなぐ重要な場所にもかかわらず5市町が「周知していない」とするなど、課題も残った。(新聞真理、貝原加奈)



兵庫県内の福祉避難所の状況				
市町名	数	周知方法		
		ホームページ	地図など	その他
神戸市	358	○		出前講座
姫路市	70	○		広報誌
尼崎市	22	○	○	出前講座
明石市	9	○	○	
西宮市	26	周知していない		
洲本市	10		○	
芦屋市	16	○	○	
伊丹市	38	○	○	
相生市	20	○	○	
豊岡市	34	○		
加古川市	31	○		
赤穂市	7	周知していない		
西脇市	※7	○	○	民生委員らを通じて
宝塚市	19	○	○	出前講座
三木市	20	○	○	
高砂市	11		○	出前講座
川西市	13	○	○	
小野市	10	○	○	
三田市	3	○	○	出前講座
加西市	15	周知していない		
篠山市	6	○	○	
養父市	6	○	○	
丹波市	9	○	○	
南あわじ市	6			設置訓練
朝来市	14		○	民生委員らを通じて
淡路市	7	○		
宍粟市	15	○		
加東市	22	○		一覧を郵送
たつの市	20	○		
猪名川町	1	○	○	防災講習
多可町	3	○	○	
稲美町	6	○		
播磨川町	11	○		
福崎町	5	○		
福崎町	6	周知していないが今後周知予定		
神河町	4	○	○	広報誌
太子町	7	○		障害者団体を通じて
上郡町	12	○	○	
佐用町	12	周知していない		
香美町	10	○		関係団体を通じて
新温泉町	12	○		
計	933	32	21	

※洪水・土砂災害では5カ所

調査は昨年12月に実施。確保している福祉避難所の数と受け入れ可能な人数▽取り組みは順調か▽周知方法一などを書面で尋ね、全41市町から回答を得た。

確保数については、国からの働き掛けもあり、大半の市町が公立施設のほか特別養護老人ホームなどの民間施設と協定を締結し、一定、進んだとみられる。

ただ、受け入れ可能な人数が対象者(基準は自治体により異なる)に占める割合を聞くと、「未集計」「不明」や無回答が多く、神戸市など15市町に上った。3割以下＝16市町▽6割以下＝3市町▽それ以上＝7市町だった。

確保の目標についても、神戸市、尼崎市、洲本市、相生市、丹波市など全体の8割に当たる32市町が「なし」と回答。西宮市が「要介護認定1～4、身体障害者手帳1・2級、療育手帳Aを所持する人ら」の受け入れを目指すとしたのははじめ、具体的な数や基準を示したのは9市町にとどまった。

自力での避難が難しい人ごとに支援者や行き先を決める「個別計画」の策定が多くの市町で進んでおらず、ニーズを把握できていないのが要因とみられる。

場所などの周知方法＝表＝については、多くがホームページや防災・ハザードマップを活用。他に、出前講座(宝塚市、高砂市など)▽障害者団体などを通じた情報提供(太子町、香美町)▽民生委員や自治会などを通じた情報提供(西脇市、朝来市)▽コミュニティーFMによる広報(三田市)ーといった例があった。加東市は、当事者に一覧表を郵送するという手厚い対応だった。

一方、西宮市、加西市など5市町は「周知していない」と回答。福祉避難所が原則、近隣の小学校などの1次避難所を経由して向かう2次避難所であることを踏まえ、「直接、向かわれても対応に苦慮する」ことなどを理由に挙げた。

また、備蓄については、3割が福祉避難所に特化した物資はないと回答した。一方で、視覚障害者や高齢者に必要な杖（つえ）や介護食を用意している自治体もあり、対応が分かれた。

福祉避難所の確保については、芦屋市、豊岡市など19市町が「順調・おおむね順調」と答えた。赤穂市など11市町は「順調でない」と回答。「行政職員の配置は人員が限られており難しい」（神河町）▽「医療機関などの人材不足」（市川町）▽「主要な施設は既に福祉避難所にしているため、他に適切な施設がない」（上郡町）一などを理由に挙げた。

【福祉避難所】一般の避難所では生活に支障がある高齢者や障害者、妊婦らを受け入れるために設けられる2次避難所。介護や生活支援に当たる職員を配置する。阪神・淡路大震災で必要性が指摘され、2007年の能登半島地震で初めて設置された。

長野の戦跡使った児童養護施設 移転して再スタート



福祉新聞 2018年01月15日 編集部
けいあいフレンズでのお昼ごはん

社会福祉法人八葉会（丸山素香理事長、長野県）の運営する児童養護施設「恵愛学園」が昨年4月、長野市松代町から千曲市に移転し、「恵愛」と改称、再出発した。6月には障害児の通所支援事業も始めた。松代は太平洋戦争末期に大本営が移転する予定だった町。恵愛は昭和の戦争遺跡を離れ、新時代の児童福祉をつ

くろうと歩み始めた。松代の恵愛学園は社会福祉法人暖家（長野市）に無償譲渡され、高齢者福祉に使われる予定という。

恵愛（定員45人）は2階建てで、子どもたちは6～8人のユニットで暮らす。食材の買い出し、調理などにも子どもが関わるようにするなど、「食育」に力を入れる。

「子どもたちの転校もあったので、地元とはかなり密に話し合いをしました」と振り返るのは橋詰邦男園長。行政職を経て園長に就いた2011年4月から、地域に開かれた施設を目指してきた。名称から「学園」を削除したのも施設色を薄めるためだ。

移転前の15年4月には県内で初めて「里親支援専門相談員」を配置し、里親の研修などを担う。17年6月には、県内の児童養護施設としては初の障害児通所支援「けいあいフレンズ」を始めた。

「けいあいフレンズ」では未就学児対象の児童発達支援と就学児対象の放課後等デイサービスの2事業を行う。定員は計10人。自宅から子どもが通い、遊びや勉強、食事、おやつなどを楽しむ場で「親御さんから大変ありがたがられている」（主任保育士の古沢昌子さん）という。

障害児向けのサービスは採算をとるのが難しいとされるが、地元ニーズがあったことに加え、「障害のある子とその親に関わった職員が施設に異動すれば施設にとってもプラスだ」（橋詰園長）と判断して開設した。

こうした新しい機能を付加した恵愛の成り立ちは、戦争遺跡「松代大本営」（現在の長野市松代地区）と深い関わりがある。

松代大本営とは、皇居や政府の中核機能を移転する目的で1944年11月から建設が進められた地下壕などのこと。完成を待たずに終戦を迎え、戦跡として残った。

恵愛学園は「仮御座所」（仮の皇居）となる予定だった建物を埴科仏教会（当時）の約7

0の寺院が借りて46年9月に創設した戦災孤児収容施設が前身だ。

施設は翌47年3月、東京都から20人超を受け入れ、同8月に長野県から認可された。



仏教会を母体として社会福祉法人八葉会が誕生したのは60年9月のことだ。

松代町にあった恵愛学園（1951年8月撮影）

10歳の時に神戸空襲で両親を亡くし、神戸・東京での浮浪生活を経て12～16歳まで同施設で暮らした山田清一郎さん（82、埼玉県在住）は、著書『俺たちは野良犬か！』（郁朋社）に当時の出来事をつづっている。

山田さんは本紙の取材に「私には帰るべきふるさとなさがないことが最もつらかった。

松代には良い思い出もあるが、ふるさとと呼ぶには遠すぎる。施設移転は良いことだと思う」とコメントした。

47年12月公布の児童福祉法とほぼ同じ70年の歳月を歩んだ恵愛。2017年は昭和の戦跡を離れ、新しい児童福祉の歴史を歩み始めた節目の年となった。



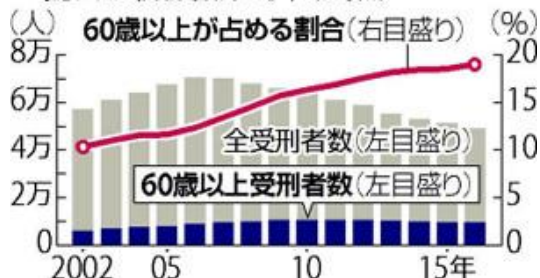
丸山理事長の談話

松代は恵愛学園が70年間お世話になり、私も思い入れが深い。しかし、近隣の鉄道の廃線など居住環境の変化により移転を決断した。高齢化率が高い地域なので高齢者のためにと思い、建物ごと土地を譲渡した。八葉会は私を含め歴代の理事長、園長が僧籍を持つ。さまざまな宗派の79の寺院から支援を受けている点は非常に珍しい。私は今の子育て中の

母親はとても孤立しているように感じる。施設はそうした親が親としての役割を果たせるよう支えるべきだ。僧籍のない初の園長として福祉に詳しい橋詰さんに来てもらったのは、施設が新しい機能を持つべきと考えたからだ。

「服役中に認知症悪化が多く…」高齢受刑者の「介護」、重荷に

◆全受刑者に占める60歳以上受刑者の割合 ※法務省調べ。年末時点



ができなくなった。今では手すりなどにつかまって歩くのがやっとの状態だ。単独室にある男性受刑者の布団には防水カバーが掛けられていた。便器への移動が間に合わないこともあるためという。

同刑務所の刑務官は、「週末などは室内にこもりがちになるせいか、服役中に認知症の症状が悪化する受刑者も多い」と話す。

読売新聞 2018年1月15日

「いつもどうやっているか覚えている？」

収容者の約2割が60歳以上の鳥取刑務所（鳥取市）。廊下の手すりを伝いながらリハビリ室に現れた男性受刑者（74）の耳元で、男性刑務官が大きな声で語りかける。受刑者はしばらくの沈黙の後、こうつぶやいた。「忘れた」

この受刑者は覚醒剤取締法違反で実刑が確定し、約2年半前に入所。2年前から物忘れなどの症状が表れ、他の受刑者と一緒に刑務作業

毎日30分間の個別リハビリ・階段では2人で背負う

鳥取刑務所では、高齢受刑者らを対象に、平日のほぼ毎日、個別に約30分間のリハビリが行われている。寝たきりになることなどを防ぐのが狙いだ。

「何本に見えますか」。女性の介護福祉士（26）が頭上に指2本を掲げた。「3本」。約2年半前に入所し、物忘れなどの症状が進む男性受刑者（74）がこう答えると、介護福祉士は「2本ですよ」と優しく声をかけた。

男性受刑者は指示に従って体を伸ばしたりするが、時折、「あっ」と痛そうな声を漏らしていた。

受刑者の高齢化を受け、国は今年度から、約30人の介護スタッフを全国の刑務所に配置。鳥取刑務所も介護福祉士1人を採用し、平日に30～40分、受刑者に運動などの指導を行っている。

だが、刑務官の負担は重い。所内には階段を使わないと行けない面接室などもあり、刑務官が2人がかりで背負って運ぶこともある。食事をのどにつまらせる恐れがあるため、食べ物を細かく刻み、食事中を通して見守る必要がある受刑者もいる。同刑務所の刑務官はこうため息をつく。『介護棟』のようなものを作らないと対応が難しい」

浜井浩一・龍谷大教授（刑事政策）は、「ヨーロッパでは重大事件を除いて高齢者を刑務所に入れない国が多い。これだけ認知症の受刑者が多いのは日本くらいであり、認知症が進行した場合は刑の執行を停止し、福祉施設に入れるべきだ」と指摘する。

認知症の出所者支援、再犯を左右

認知症の出所者らを支援する社会福祉法人「南高愛隣会」（長崎県）などが、2015年～16年7月末に行った追跡調査によると、認知症の疑いがあるとして調査対象とした受刑者72人中、出所時に福祉施設の確保や生活保護の申請などをしてもらえる「特別調整」を使って出所した16人は、調査期間中に罪に問われることはなかった。一方、特別調整を使わず出所した29人中、5人が再び罪を犯したとして起訴され、すでに3人は刑務所に収容された。

法務省は今後、認知症受刑者に特別調整の利用を促し、再犯率の低下につなげたい考えだが、課題は残る。

特別調整は、出所後の孤独感や経済的不安を和らげ、再犯を減らすことなどを目的に09年度から導入されているが、本人の事前の同意が必要だ。鳥取刑務所の別の刑務官は「これまでは、利用を勧めても断られることも多かった」と明かす。

また、そもそも制度について受けた説明を数時間後には忘れてしまう受刑者もいるほか、「会社を始めるから必要ない」などと実現性の乏しい話を繰り返す受刑者に対し、面接を4～5回重ねた末にようやく同意を得たこともあったという。

同省幹部は「認知症受刑者の病状を把握してきめ細やかな処遇を行うとともに、病状が進む前から特別調整の利用を促すなどし、医療機関や福祉施設と連携して再犯の防止につなげていきたい」と話している。

大人の発達障害者支援を議論 「当事者会」フォーラム開催 大阪市

産経新聞 2018年1月15日

成人期の発達障害者支援について考えようと、発達障害当事者協会などは14日、大阪府中央区の大阪産業創造館で「発達障害当事者会フォーラム」を開催した。

発達障害当事者の交流や情報交換の場となる「当事者会」の活動に関し、同協会が全国の発達障害者支援センターや当事者会に行った調査結果について報告。当事者会は孤立しがちな当事者同士が緩やかにつながることができる「居場所」としての機能があるものの、運営資金や当事者同士のトラブル対応などに課題があることが示された。

後半は、大阪、兵庫、愛知の当事者会の代表や専門家らがパネルディスカッション。当事者会では就労や恋愛についての相談が多く寄せられていることなどが紹介された。また、

発達障害者支援センターや専門家による当事者会への支援の在り方などについて活発に意見が交わされた。

「生きづらさ」語る朗読会 服はひきこもり期のパジャマ 朝日新聞 2018年1月15日
パジャマ姿で朗読する月乃光司さん=名古屋市千種区



ひきこもりや精神障害などから、社会に抱く「生きづらさ」をテーマにした朗読会が13日、名古屋市千種区の「喫茶モノコト」で開かれた。新潟を中心に活動する障害者らの

パフォーマンス集団「こわれ者の祭典」のメンバーが、ユーモアを交えながら自身の経験に基づき制作した詩を読み上げた。

「いなくならないで……」「死にたいと書き込む前に僕たちの姿を見てくれ」

朗読したのは、同団体の成宮アイコさん（34）と月乃光司さん（52）。2人とも精神障害などから自殺未遂をした過去がある。月乃さんは、ひきこもっていた学生時代のパジャマを着て登場。「拍手をしてくれないとリストカットしますよ」などと明るく冗談を言うと、参加者からは笑いが起こった。

月乃さんは新潟市で会社員をしながら年5回ほど活動する。「何かしらの『生きづらさ』を感じている人たちに居場所やつながりを感じてほしい」と語る。

生きづらさを抱える人たちの集まる自助会のメンバーが、「こわれ者の祭典」に出演を依頼し、朗読会が実現した。参加した20代の男性は「楽しかった。元気をもらった」と話した。



医師の残業、過労死ライン2倍…日赤病院が協定 読売新聞 2018年1月15日

日赤医療センター（東京都渋谷区）が、医師20人に労使協定（36協定）の上限を超える違法な残業をさせていたとして、渋谷労働基準監督署から是正勧告を受けていたことが、同病院への取材でわかった。

36協定に基づく残業時間の上限も月200時間と、厚生労働省が「過労死ライン」とする月100時間の2倍となっているため、同病院は今後、協定内容を見直すとしている。

同病院によると、常勤医は約260人で、毎年9月に36協定を締結。特段の事情が発生した場合の残業時間を「1か月200時間、年間2000時間」と規定している。しかし、2015年9月からの1年間で、月200時間を超えた医師は、小児科や外科などを中心に、4回が2人、2回が3人、1回が15人だった。体調を崩した人はいなかったという。

手話条例、北海道でも成立へ 問われる具体化 長谷川潤 朝日新聞 2018年1月15日

手話が言語であるとの認識を広め、手話が使いやすい社会の実現を目指す――。北海道は、来月に開会が予定されている道議会定例会に、このような内容の「手話言語条例」を提案し、成立する見通しだ。条例の制定で、何が変わるのか。

北海道庁の仕事始めの4日、高橋はるみ知事は今年最初の会見の冒頭で、手話を交えて「明けましておめでとうございます」とあいさつ。新規採用の道職員が研修で手話の簡単な受け答えを学んでいるとも紹介した。道がホームページで公開している知事会見の動画には、この日の分から手話通訳の映像を入れた。

道が手話言語条例を制定する狙いは「手話を言語として広く認知させること」と「手話を使う人たちが暮らしやすい社会を作ること」だ。条例には基本理念のほか、道、市町村の責務や道民、事業者の役割も盛り込んだ。

北海道のホームページで公開している高橋知事の会見の動画。今年分から手話通訳を入れた

背景には、手話をめぐる国内外での動きがある。2011年に改正された障害者基本法には「すべての障害者は、可能な限り、言語（手話を含む）その他の意思疎通のための手段の選択の機会が確保される」と記された。また日本政府は14年に「障害者の権利に関する条約」に批准した。

手話条例の制定も全国で進んだ。13年10月の鳥取県を皮切りに、今月5日までに15府県、99市、11町にのぼる。



成人を祝うつどい 知的障害者ら200人出席 横浜 / 神奈川

毎日新聞 2018年1月15日

知的障害のある人などのための「成人を祝うつどい」が14日、横浜市港北区の障害者スポーツ文化センター横浜ラポールで開かれた。市心身障害児者を守る会連盟などの主催。真新しいスーツや華やかな振り袖に身を包んだ約200人の新成人が出席し、付き添いの親たちも我が子の晴れ姿に笑顔いっぱいだった。つどいは今年で35回目。多くのボランティアが着付けや記念撮影をし、手作りで運営されている。

式典に先立ち、知的障害のある姉と、弟によるジャズユニット「サファリパーク Duo」が演奏を披露

今週の新刊 今春アニメ放送の「東京喰種トーキョーグール：re」 「境界のRINNE」最終巻も

毎日新聞 2018年1月14日

「東京喰種トーキョーグール：re」14巻のカバー (C) 石田スイ/集英社

新刊コミックス情報をお伝えする「今週の新刊」。15～20日に発売される主なコミックスは約200タイトル。今年4月にテレビアニメが放送される「東京喰種トーキョーグール：re」14巻や、昨年、約8年の連載が完結した「境界のRINNE」最終40巻が発売される。

15日は、テレビアニメが放送中の「ハクメイとミコチ」6巻などが登場。16日は、砂の海に覆われた世界に生きる人々の戦いを描くファンタジー「クジラの子らは砂上に歌う」11巻、実業団バレーボールチームのアナリ



ストを務める男が主人公の「神様のバレー」15巻などが店頭に並ぶ。

17日は、人を襲う保菌者から逃げる高校生の姿を描いた「インフェクション」9巻、「ソウルイーター」などの大久保篤さんの「炎炎ノ消防隊」12巻、格闘マンガ「ランカーズ・ハイ」5巻、ラブコメマンガ「星野、目をつぶって。」9巻、SNS上でのデスゲームを描いた「リアルアカウント」18巻などが発売される。

18日は、「境界のRINNE」最終40巻のほか、テレビアニメ化された「MAJOR 2nd」12巻、児童虐待をテーマにした「新・ちいさいひと 青葉児童相談所物語」3巻、魔王城に捕らわれの身となったお姫様が安眠を求めて好き放題にする「魔王城でおやすみ」6巻、声優を題材にした「天使とアクト!!」13巻、藤田和日郎さんの「双亡亭壊すべし」7巻などが登場する。

19日は、「東京喰種トーキョーグール：re」14巻のほか、テレビアニメ化もされた原泰久さんの「キングダム」49巻、俳優の松坂桃李さん主演で実写映画化する「不能犯」7巻、実写映画化が発表されている「兄友」7巻と話題作が続々と発売。ほかにも、ウェブマンガ「恋と呼ぶには気持ち悪い」4巻、テレビドラマ化された「ホクサイと飯さえあれば」6巻、マンガ家の西原理恵子さんと高須クリニックの高須克弥院長の交際をつづったエッセーマンガ「ダーリンは72歳」、藤子不二雄Aさんと西原理恵子さんがコラボした「藤子不二雄A&西原理恵子の人生ことわざ面白“漫”辞典」などが登場する。

20日は、16世紀初頭のフィレンツェを舞台に貴族のお嬢様が画家工房で奮闘する姿を描く「アルテ」8巻、新選組がテーマの「ちるらん新撰組鎮魂歌」20巻などが店頭に並ぶ。

※発売日は配送の都合などで変更の可能性があります。

余録 夏子は14歳の中学生…

毎日新聞 2018年1月15日

夏子は14歳の中学生。学校には居場所がない。出会ったのは一つ年上の月島。2人は長い時間をともにし、傷つき、悩みながら成長していく。人気バンド「SEKAI NO OWARI」（世界の終わり）のメンバー、藤崎彩織（さおり）さんの小説「ふたご」だ▲初めての作品があす発表の直木賞にノミネートされ、若者によく読まれている。夏子たちがバンドを結成してライブを開く。藤崎さんの人生と重ねる読者も多い▲夏子は小学生の時にひどいじめに遭う。藤崎さんは雑誌のインタビューで話している。「すごく悲しい過去がたくさんある。靴に画びょうを入れられたりとか、ランドセルに死ねって書かれたり……。ボーカルのFukase（深瀬）さんも学校になじめず、自身の発達障害にも苦しんだ。彼が月島のモデルだろう▲彼らは世界が終わったように、何もないどん底から音楽を始めた。その思いがバンド名に込められている。Fukaseさんは「(こんな自分だから)逆にそれは自分は劣等生だと思ってた奴(やつ)にも希望を与えられるものなのかもしれないし、病気で苦しい奴らにも……」と話している。藤崎さんに小説を書くよう勧めたのも彼だった▲彼女が作詞した「プレゼント」という曲がある。<いま君のいる世界が辛(つら)くて泣きそうでも それさえも「プレゼント」だったと笑える日が必ず来る>▲つらい経験をしたからこそ心打つ音楽や小説を生み出せる。そのことを今、苦しみを抱えている子供たちに知ってほしい。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行